

(款) 20衛生費 (項) 5保健衛生費 (目) 15健康管理費

◎健康診査の経費

成人健康診査事業	【 市民健康課 】
----------	-----------

【総合計画上の位置づけ】

健やかで心豊かに暮らせるまち

健康福祉:すべての市民が健康で安心して生活を送ることのできる環境が整っているまち

【事業の目的】

対象 健診対象年齢に達した市民

意図 生活習慣病の予防と重症化の防止のため。

効果 市民1人1人が自分の健康状態に留意し、健康を害する生活習慣を改善し、医療費の抑制につなげる。

【事業の内容】

(1) 成人健康診査事業

- ・若年期からの生活習慣病予防のため20歳～38歳の方には健診キットによる健診を実施した。(偶数年齢で隔年実施)
- ・40～64歳の基本健康診査(19年度対象者分)を実施した。
- ・20～40歳の方には4歳刻みで、40～70歳の方には10歳刻みで歯周疾患検診を実施した。(問診、口腔内検査)

【中事業に含まれる実施計画事業】

20歳からの成人健診事業の充実(4-1-3-⑥)

生活習慣病の予防(4-1-3-⑦)

【事業費】

(単位:千円)

当初予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	
39,464	36,435	33,584		2,851	
主な支出内訳					
・成人健康診査事業					
キット健診委託料 1,125人				2,928	
基本健康診査委託料 40～64歳(19年度対象者分) 2,864人				26,230	
肝炎検診委託料 428人				1,349	
歯周疾患検診委託料 619人				3,011	
主な特定財源					
・国県支出金				2,636	
キット健診(20歳～38歳)※国保加入者を含む。					
区	分	受診者数	異常なし	要観察	要医療
血液検査		1,674人	917人	604人	153人
基本健康診査(40歳～64歳)					
区	分	受診者数	異常なし	要指導	要医療
血液・尿・心電図検査等		2,864人	644人	1,413人	807人
歯周疾患検診(20歳～36歳、40歳、50歳、60歳、70歳)※国保加入者を含む。					
区	分	受診者数	異常なし	要指導	要医療
口腔内診査		678人	42人	37人	599人

平成21年度事務事業評価シート

事務事業 No./名称	■サービス部門 健福-43 成人健康診査事業 □支援部門						
事務事業 単 位	ザイムス コード及び 個別事業 名	108成人健康診査事業					
		109成人健康診査事業					
主管課	市民健康課	関連課	保険年金課				
分野名	健康福祉						
目標 (目標値)	市民の疾病予防と健康の維持。						
人口等の データ	データ区分	20年度	19年度	18年度	備 考		
	人 口	176,484人	175,902人	175,051人	・各年4月1日		
	世 帯 数	77,430世帯	76,536世帯	75,611世帯			
運営資源 状 況	決算値	33,584千円	111,879千円	91,504千円			
	(国・県)	2,636千円	50,779千円	46,966千円			
	(負担金等)	0千円	0千円	0千円			
	(一般財源)	30,948千円	61,100千円	44,538千円			
	人員配置数	0.5人	2.0人	1.4人			
	人 件 費	4,683千円	18,690千円	13,130千円			
協働の パートナー	鎌倉市医師会 検診機関 鎌倉市歯科医師会	鎌倉市医師会 検診機関 鎌倉市歯科医師会	鎌倉市医師会 検診機関 鎌倉市歯科医師会				
事務事業 運営経費	総事業費	38,267千円	130,569千円	104,634千円			
	市民1人当 りの経費	217円	742円	598円			
	対象者1人 当りの経費		—	12,829円			
20年度事務事業の変更点(新規・廃止・縮小した個別事業)/事業仕分けの視点による妥当性の評価							
個別事業名	変更額(千円)	事業の変更点・変更理由			妥当性※	※妥当性の評価	
基本健康診査事業	74,105	平成20年度から各保険者が実施する特定健診となり、基本検診は終了した。 (ただし、平成19年度積み残し分は実施)			④	① 必要性なし ② 民間 ③ 国・県 ④ 現行どおり(鎌倉市)	
指 標	評 価	年 度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
指 標	評 価	年 度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
指 標	評 価	年 度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
指 標	評 価	年 度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
評価 ◎:目標を達成 ○:目標に向かって前進している △:横ばい ×:後退している ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)							
団体名							

平成21年度事務事業評価シート

創意・工夫・課題等改善状況	課題・問題点	(20年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) ・(キット健診)健診受診者へ「総合判定結果通知」と「食生活設計相談室の案内」を送付してはいるが、生活習慣改善支援が十分でなかった。 ・(歯周疾患検診)60、70歳の受診率が高いが、20～30歳代の受診率が低かった。
	創意・工夫・課題等の改善点 20年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) ・(キット健診)「総合判定結果通知」に生活習慣を見直すためのアドバイスを掲載した。 ・(歯周疾患検診)衛生時報で歯周疾患検診を受ける必要性を周知した。
	未解決の課題・問題点	(20年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) ・(キット健診)健診受診者のうち、約半数の人に何らかの異常が見られる。異常が見られた者へは、医療機関の受診をすすめ、その後の生活習慣改善支援を行う必要がある。 ・(歯周疾患検診)若年層へ歯周疾患検診の重要性を周知する必要がある。
	今後の方針 (対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) ・(キット健診)「総合判定結果通知」のアドバイスを充実させるとともに、その後の生活習慣改善支援のあり方を検討していく。 ・(歯周疾患検診)広報、衛生時報等で、若年層へ歯周疾患健診の重要性を周知する。

一次評価(課長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 B:現状のまま継続	C:統合又は縮小 D:廃止又は休止	E:事業完了	B	改善の必要性 有
	キット健診を受けるだけで終わらないように、その後のケアのあり方を検討する。 歯特に若年層を中心にして歯周疾患検診の受診率の向上を図る必要がある。				
担当課長氏名:		市民健康課長 相川 誉夫			

二次評価(部長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 B:現状のまま継続	C:統合又は縮小 D:廃止又は休止	E:事業完了	B	改善の必要性 有
	歯周疾患検診の重要性を周知する必要がある。				
担当部名	健康福祉部	部長名	石井 和子		